

季節の花特別編

花の観察ポイント

次第に春の暖かさが増してきました。これから初夏にかけて百花繚乱の季節です。植物、特に花は昆虫に受粉を助けてもらうために精一杯自分をアピールしているように見えます。私たちにせっかく与えられたこのチャンスを見逃すことなく、花を詳しく観察することをお勧めします。観察の仕方にはこれといって決まりはなく、難しく考える必要はありません。「私のためにきれいに咲いてくれている」と花に癒やしを求めるだけでも十分です。参考までに、自然観察を長年続けてきている私が、花（主として野生種）の観察の際に意識しているポイントを二、三紹介します。

まず花の色・形など、昆虫との関係です。年明け後、ロウバイ、マンサクに続き、トサミズキ、キブシ、サンシュユなど早春には黄色い花が多く 30~40%を占めている感じがです。色彩の少ないこの時期、澄んだ青空に補色の黄色は非常に目立つ色で、いち早く活動するアブ、ハエ、ハチ類に花粉を運んでもらう戦略のように感じられます。形も、ミズキやヤブガラシのように上向きに咲く小さな花の集まりであればどんな昆虫でも蜜が吸え、その代償として花粉を運んでもらえます。しかし下を向いた壺形のアセビやドウダンツツジなどであればハナバチ類しか潜れ



写真①
ハクモクレン



写真②
タンポポ

ず、花の奥深くに蜜があるツツジなどは大型のアゲハチョウが長い口（口吻）を伸ばすしかありません。花の形を特化させてきているのです。

もう一つ、3月後半に咲くハクモクレン（写真①）やコブシなどの花の構造をみると、多くの雄しべと雌しべが長い軸にらせん状についています。こうした形の花は祖先が古い時代に誕生した原始的な花です。一方、キク、タンポポ（写真②）、アザミなどのように、小さな花が集まって一つの大きな花（頭状花）を作っているキク科の花は最も進化した新しい花といわれます。

被子植物は、恐竜が地球上を闊歩していた1.5億年前を境にしたジュラ紀の末期頃から白亜紀にかけてマツなどの裸子植物から分化した植物。長い歴史の中で花の色や形、構造を変えることで生き残り、その多くは昆虫とともに繁栄してきました。

花を観察する際、こうした昆虫との関係や進化という観点から見ると深みが増し楽しいものです。

大森拓郎（おおもりにたくろう）

（日本自然保護協会自然観察指導員・新町在住）

柳沢

第15回

人形劇フェスタ in 西東京

【共催事業】

3月21日(日) 会場:柳沢公民館

個性豊かな人形が大集合！
どんなお話が飛び出すか。お楽しみに！
授乳室あります。入場無料です。



事前申込制 3月3日(水)12時半から受付開始

【第1部】11時~(40分程度) 【対象】幼児 【定員】38人(申込順)

- ☆「くじらとタコと海の仲間」 豆くま
- ★「お楽しみパネルショー」 パネルシアターピーかぶー

【第2部】13時~(1時間程度) 【対象】幼児から小学生 【定員】38人(申込順)

- ★「パネルバラエティショー」 パネルシアターピーかぶー
- ☆「マメ子と魔物」 くまねずら

【第3部】15時~(1時間程度) 【対象】幼児から小学生 【定員】38人(申込順)

- ★「ジャックと豆の木」 影絵ゆきまど
- ☆「カエルの王子様」 グリムカンパニー

《申し込み方法》

3月3日(水)12時半から電話で柳沢公民館へ

- ①希望回(第1部・第2部・第3部)
- ②お名前
- ③連絡先

《人形劇フェスタ in 西東京とは》

「子どもたちが気軽に人形劇を楽しめる機会を西東京市に根づかせたい」と願う市民が集まって、企画運営するおまつりです。西東京市内を中心に活動しているアマチュア劇団の公演です。

※人形劇フェスタ in 西東京実行委員会との共催



②「グー・チョコキ・バー」/ステンレススチール、土、タマリユウ/長澤伸穂(のぶほ) 世界各地で使われている子どもの遊びを表現。コミュニケーションが渦を巻いて広がることを願う。



①「母子像」/ブロンズ、御影石、花こう岩/細井良雄 母子のふれあいと穏やかな表情を通して、平和の大切さを訴える。



③「East Asian Time Terrace(イースト・エイジアン・タイム・テラス)」/レンガ、ブロンズ、竹/アズビー・ブラウン 江戸時代に輸入されたという半球型の時計から発想を得て、丘陵に時を刻むテラスを創出。



⑥「AS(アズ)」/コールテン鋼ステンブラック処理/松本憲宜(のりよし) 直線と曲線、安定と不安定な形態から、生命が持つ変化に満ちた時の流れを表現。



④「廻り岩」/不明/半田富久 太古より人々が抱えてきた「神の力が巨石を動かす」という思いを作品に託し、地域を見守る象徴とした。

わが街をもっと知りたくて
ちよごと彫刻さんぽ
第2回 文理台公園・谷戸イチョウ公園

市内にある野外彫刻を編集室が取材紹介する「彫刻さんぽ」。第2回は文理台公園と谷戸イチョウ公園です。それぞれ三つの彫刻があり、きっと知らなかった作品に出会えるでしょう。

文理台公園(東町1-4)の入口広場に建つ①「母子像」。1984年の開園以来、母子の笑顔が来園者を優しく迎えます。右手奥の緑地に進むと、盛り上がった地面にじゃんけんの手の形を表現した②「グー・チョコキ・バー」を発見！子どもが自由に遊ぶことを目的に作られた作品ですが、楽しさ満載で大人も童心に返って遊びたくなります。中央のグラウンドの北、ポンプ場に続く丘陵に広がるのは③「East Asian Time Terrace(イースト・エイジアン・タイム・テラス)」。文理台公園の広さや地形を生かしたスケールの大きな作品です。

一方、谷戸イチョウ公園(谷戸町2-12)の開園当初(1987年)からあるのは④「廻り岩」。石に地域を守る願いを託しました。公園のシンボルとして親しまれているのが、西側にある高さ6mの石のモニュメント。⑤「桌の化石」と名付けられたこの作品は、作者いわく「数万年後に20世紀の化石の一つとして出土する」と壮大なロマンを秘め、見る者の想像力をかき

立てます。もう一つ、公園の東側には高さ3mの鋼製のモニュメント⑥「AS(アズ)」も。3作品それぞれ持ち味が異なり、見比べるとより楽しめるでしょう。

なお②③⑤⑥は、多摩地域が東京に編入して百周年を迎えた1993年に、東京都の記念事業(※)として設置されました。普段何気なく利用している公園に、こんな多彩な彫刻があることに気付くと、公園全体がまた違った印象を持って見えてくるように感じました。そして老若男女が集い憩う公園で、私たちの心を潤し豊かにしてくれるこれらの文化財を、守り残していく責任について考えました。

※北多摩北部6市(当時)それぞれに彫刻を2点ずつ恒久設置。西東京市は合併前で、旧保谷市は文理台公園、旧田無市は谷戸イチョウ公園に設置した。